

令和5年度 宇都宮市立平石北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- | | |
|----------|--|
| (1) 基本目標 | 心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。～ 心ゆたかで かしこく たくましく ～ |
| (2) 具体目標 | ・思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
・進んで学び自ら考える子（かしこく）
・心と体をきたえる子（たくましく） |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」活気ある学校経営の推進 —

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- | | |
|--|---|
| (1) 目指す学校の姿（本校の使命） 「活気あふれる地域の学校」 | ○①夢や意欲がもてる学校
○②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
○③互いの個性やチャレンジを認め合える学校
④保護者・地域から信頼され魅力のある学校 |
| (2) 目指す教職員像 | ① 人間性・社会性豊かで信頼され、人権感覚の鋭い、児童を第一に考える教職員
② 自己のキャリアを高め、自らの資質・能力の向上を図ろうとする意識の高い教職員
③ 学校組織の一員としていたわり合い、補い合い、励まし合い、協働し支え合う教職員
④ PDCA サイクルにより業務改善を図り、学校の組織力を高められる教職員 |
| (3) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全教職員による実践推進 | プロジェクト1 「さわやか生活プロジェクト」（心ゆたかで）：いじめのない温かな人間関係の構築
プロジェクト2 「いきいき勉強プロジェクト」（かしこく）：学校課題の推進
プロジェクト3 「すくすく体プロジェクト」（たくましく）：健康な体作りと食育
プロジェクト4 「地域から学ぼうプロジェクト」（特色ある学校づくり）：地域との連携 |

[鬼怒地域学校園教育ビジョン] **自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成**

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教育横断的な視点で内容を組織的に配列する
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程をPDCA サイクルで実施改善する
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。（体験活動・出前授業・各種ボランティア・平北ファーム・幼小交流活動 等）

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

【 学 習 指 導 】

- ・「基礎基本を確実に習得し、それらを活用する力の育成」～ともに学び、分かる魅力ある授業の追究を通して～

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・互いを認め合い、励まし合う指導を通じた、自己肯定感・自己有用感の育成
- ・規範意識を高め、多様性を認めて支え合い、安心して過ごせる学級集団の形成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者対象 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の気付きや考えを伝え合うグループ活動や多様な学習形態を工夫する。 児童の思いをゆさぶる効果的な発問の工夫と教師によるコーディネートを通して課題解決に主体的に取り組めるようにする。 	B	<p>【達成状況】 児童89 教職員100 保護者87 ・全ての対象で, 目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・ねらいや学習内容, 子どもの実態などに応じてペア学習やグループ学習を取り入れ, 学び合いの充実を深める。 ・目指す子どもの姿を想定して中心発問を設定する。子どもの考えを広げ深められるように, コーディネートしていく。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学級活動の授業では, 特に親切や思いやりについて主体的に考え話し合う活動を取り入れる。 なかよし班活動などの異学年交流活動を通して, 互いを思いやる気持ちを育てるようにする。 	B	<p>【達成状況】 児童88 教職員94 保護者92 地域100 ・全ての対象で, 目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の授業を通して, 親切や思いやりについて話し合う活動を取り入れる。 ・なかよし班活動や農園活動などの異学年交流活動を通して, 互いを思いやる気持ちを育てるようにする。</p>
	<p>A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童, 教職員, 保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> プールや持久走, なわとびの学習において, 検定カード等の活用を図り, 達成感を味わう機会を作る。 「校長先生からの挑戦状」や「担任からの挑戦状」を活用し, 継続的な児童の行いを認め称賛することで, 目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。 上記①②の各種カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」をこまめに持ち帰り, 保護者へ児童の頑張りを伝え, 称賛してもらうことで, 児童の達成感を高める。 道徳や学級活動の時間を通して, 粘り強く頑張ることについて考え, 一人一人に寄り添いながら支援していく。 	B	<p>【達成状況】 児童88 教職員100 保護者76 ・保護者のみ, 目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・プールや持久走, なわとびの学習において, 検定カード等の活用を図り, 達成感を味わう機会を作る。 ・「担任からの挑戦状」を活用し, 継続的な児童の行いを認め称賛することで, 目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。また, その様子をHP等で周知する。 ・上記①②の各種カードや「キャリアパスポートの振り返りカード」をこまめに持ち帰り, 保護者へ児童の頑張りを伝え, 称賛してもらうことで, 児童の達成感を高める。 ・道徳や学級活動の時間の様子をHP等で児童の頑張りを積極的に発信する。</p>

	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、場面・発達段階に応じ、継続的に指導するとともに、お昼の放送等で全体に指導を行う。 ・食育指導や保健教育、避難訓練の様子や取組を各種便りやHPで、保護者に発信・提供するなど、啓発活動を継続する。 ・下校指導と登下校の様子の聞き取りを継続的に行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と危険箇所の情報を共有し、協力して安全に登下校できるようにする。 	<p>【達成状況】 児童90 教職員100 保護者84 地域100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のみ、目標値を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、保健や学級活動の授業において、具体的な資料や活動を元に指導したり、日常の場面に応じて継続的に指導したりする。 ・保健教育や食育指導の様子を各種便りやHPなどで、保護者に発信・提供するなど、保護者への啓発活動を継続する。 ・下校指導と登下校の様子の聞き取りを継続的に行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と危険箇所の情報を共有し、協力して安全に登下校できるようにする。
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートに記入する内容を明確化するとともに、家庭や地域との連携を図り、働くことの大切さを実感できる授業展開を図る。 ・児童の自己肯定感を高めるために、学級の活動や児童会活動等において主体的に取り組んでいる姿や協力している様子を見取り、認め、励ます指導を学校全体として継続して行う。 ・さくら連絡網やHPを活用し、児童の活動の様子や活躍している姿を積極的に発信する。 	<p>【達成状況】 児童85 教職員100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートや行事等の振り返りカード、各種検定などを振り返る機会を設け、自分のよさや成長を感じられるよう指導の工夫をする。 ・児童の自己肯定感を高めるために、学級の活動や児童会活動等において主体的に取り組んでいる姿や協力している様子を見取り、認め、励ますとともに児童同士が認め合う場を設ける。 ・さくら連絡網やHPを活用し、児童の活動の様子や活躍している姿を積極的に発信する。
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、ALTと連携しながら、教師が進んで英語を話すことで、英語を使ったり、児童が実際に英語を話したりする活動を取り入れたりする。 ・英語に関する掲示物を工夫し、児童の英語への関心を高めていく。 ・給食の放送の時間に、ALTの英語コーナーを設定し、挨拶や季節の行事などをテーマとした話や、英語での本の読み聞かせなどをする。 	<p>【達成状況】 児童87 教職員94</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童のみ、目標値を下回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと教材研究等の連携をとりながら、授業において、英語でのコミュニケーション活動をさらに取り入れていく。 ・ALTと連携し、英語に関する校内放送や掲示物等を活用したり、ALTと直接コミュニケーションを取る機会を設けたりして、児童の英語への関心を高めていく。

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間に、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開し、地域の良さを実感できるようにする。また、HPや各種たよりに掲載して情報を発信し、保護者に広く周知する。 掲示コーナーの設置やお昼の放送での民話の紹介、学習のための資料の蓄積などを通して、「宇都宮学」の充実を図る。 給食の「宮っこランチ」の日に合わせて宇都宮の歌を歌い、郷土愛を深める。 	<p>【達成状況】 児童88 教職員94 保護者69 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平石地区や宇都宮市についての学習の際、出前授業やゲストティーチャー等を積極的に活用し、創意工夫を生かした特色ある授業を実践していく。 宇都宮に関する校内放送や掲示物等を活用し、児童の宇都宮に対する関心を高める。 HP等を活用し、児童の宇都宮への関心を高めるための取組を保護者に周知する。 給食の「宮っこランチ」の日に合わせて宇都宮の歌を校内放送で流す。
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館司書と連携しながら単元に関する図書を活用した学習を行う。 情報主任を中心に研修を積み重ね、ICT機器を積極的かつ効果的に授業において活用する能力を育成する。 家庭と連携したり、HP等を活用したりして、デジタル機器や図書を児童が活用する様子を保護者に周知する。 	<p>【達成状況】 児童86 教職員100 保護者83 地域82 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいを達成するため、一人一台端末等のICT機器を効果的に活用する。 図書館司書と連携しながら、図書を活用した指導の充実を図る。 HP等を活用し、ICT機器や図書を児童が活用する様子を保護者に周知する。
<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の植物の栽培や総合的な学習の時間における、環境問題に関する学習、SDGsに関する学習などを積極的に実施する。 「持続可能な社会」についての関心が高まるよう、委員会活動において、リサイクルの推進や緑化運動を実施したり、それらの活動を全児童に紹介したりする。 	<p>【達成状況】 児童91 教職員83 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業において「持続可能な社会」について意識して指導したり、出前授業やゲストティーチャー等を活用した、特色ある授業を行ったりする。 委員会活動において、リサイクルの推進を実施するとともに、全児童に紹介することで、「持続可能な社会」への関心が高められるようにする。
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。 	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じて、適宜支援を行う。 必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を意図的に実施する。 ・いじめゼロに関するアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。 ・児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【達成状況】 児童98 教職員100 保護者78 地域88 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を継続して実施する。 ・いじめゼロに関するアンケート・いじめゼロ標語の作成等を通して意識の向上を図る。 ・児童会や平北レンジャーの活動を中心に、いじめゼロ運動を計画的に実施する。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会(不登校対策含)、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を迅速に図り、対応策を検討していく。 ・SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。 ・係や当番活動の取組、帰りの会における振り返りなど、児童の活躍の場や認め合う場をさらに設けていく。 	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 児童98 教職員100 保護者91 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から児童の様子を注意深く観察して変化に気付けるようにしたり、必要に応じて、電話連絡や家庭訪問を通して保護者と連携を図ったりする。 ・児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会(不登校対策含)、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を図ったり、対応策を検討したりしていく。 ・スクールカウンセリングマネージャーや特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。 ・係や当番活動の取組、帰りの会における1日の振り返りなど、児童の活躍の場や認め合う場を設ける。
	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。 ・月1回以上の各クラスでの共遊の時間を設けるなど、ロング昼休みの使い方を工夫したり、なかよし班活動などの異学年交流を行ったりしていく。 	<p style="text-align: center;">B</p> <p>【達成状況】 児童97 教職員100 保護者92 地域100 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。 ・月1回以上の各クラスでの共遊の時間を設けたり、なかよし班活動などの異学年交流を行ったりしていく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や 児童にきめ細かな指導を 行い、学力向上を図って いる。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲が向上し、学習のね らいが達成できるよう宇都宮モデル （「はつきり」、「じっくり」、「すつきり」） の各過程の指導の質的向上を図る。 ・めあて、まとめ、ふり返りを意識した授 業を実践し、児童が学習に見通しをも って取り組むとともに、振り返りを行う ことで、より確実に学習内容の定着が 図れるようにする。 ・算数における習熟度別学習やTTの実 施、かがやきルームの活用など、個 に応じた指導の充実を図ることで、基 礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を基に、学校課題と 関連する課題を設定し、学校全体で 課題設定に取り組む。 	<p>【達成状況】 児童97 教職員100 保護者83 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業においてめあてをはつきり示し、 児童がじっくり考え すつきり解決す る学習の流れで授業を展開するよう、 学習に見通しをもって取り組めるよ うにする。 ・算数における習熟度別学習やTTの 実施、かがやきルームの活用など、個 に応じた指導の充実を図ることで、基 礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を基に、学校課題と 関連する課題を設定し、学校全体で課 題設定に取り組む。 ・HP等を活用し、授業の様子を紹介し たり、授業参観や学級懇談会等で児童 の学びについて伝えたりしていく。
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力して 業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事の実施状況を振り返りPD CAサイクルによる学校行事の精選、 内容のスリム化を図る。 ・学校職員（ICT 支援員、スクールカウ ンセラー、ALT を含む）が協力し、専門 性を生かして取り組める体制を整え る。 ・学習資料のデータや現物を学校として 蓄積し、次年度の学習に活かすこと で業務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルによる学校行事精選や 行事内容のスリム化、校務分掌の見直 しを図る。 ・教職員の多様な専門性を活かした指 導・支援体制を整えていく。 ・学習資料のデータや現物の蓄積と引 継ぎを確実にし、業務の効率化を図 る。
<p>4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業 務の効率化に取り組んで いる。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の反省、教育課程の振り返り などを通し、学校運営の見直しや行 事の実施方法の改善を行う。 ・勤務時間を意識した働き方を推進す るために、教職員が取りやすい形でリ フレッシュを実施する。 	<p>【達成状況】 教職員95 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の反省、教育課程の振り返り などを通し、学校運営の見直しや行 事の実施方法の改善を行う。 ・見通しをもった校務分掌における提 出物、起案文書作成等や業務の遂行と 教職員間の連携を通して勤務時間を 意識した働き方を推進する。
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・ 地域学校園」の取組を行 っている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、保護者、地域対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園での児童、生徒間の交流、 各部・分科会における教職員の交流 を図るとともに、活動内容を各種た よりやHP等で発信する。 ・交流授業や中学校訪問を通して、中 学校進学に対する不安軽減を図る。 	<p>【達成状況】 児童92 教職員100 保護者81 地域住民80 ・すべての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校園での児童、生徒間の交 流、各部・分科会における教職員の交 流を図るとともに、活動内容を各種 たよりやHP等で発信する。 ・あいさつ運動、乗り入れ授業、中 学校訪問など交流活動における振り 返りの充実を図る。
<p>5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業 等と連携・協力して、教育 活動や学校運営の充実を 図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動や米作りなど地域や PTA との連携をさらに推進し、地域に 根差した特色ある学校づくりを目指 	<p>【達成状況】 児童93 教職員100 保護者88 地域住民100 ・すべての対象で、目標値を上回った。</p>

<p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会との協力、連携を密にして学校運営の充実を図るとともに、学習ボランティア等を活用し、地域の教育力を充実させる。 	<p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティア、花壇ボランティア、農園ボランティアなど地域やPTAとの連携をさらに推進していく。 ・地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用や各種地域協議会主催の事業の活性化を推進する。
<p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員、保護者、地域対象 肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会やひらきたレンジャーの活動、各種たより、掲示物等を活用して、児童に安全な生活の仕方について啓発し、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施や日頃の環境整備については、実施方法を改善し、危険箇所の周知を図って、修繕箇所への迅速な対応に取り組む。 ・熱中症警戒アラート発令時、雷雨などの気象災害への迅速な対応と、さくら連絡網を活用して、保護者への確実な情報提供を行う。 	<p>【達成状況】 教職員 100 保護者 88 地域住民 93</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動や各種たより、掲示物等を活用して、児童に安全な生活の仕方について啓発し、その様子を各種便りやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施や日頃の環境整備を通して、危険箇所の周知を図り、修繕箇所への迅速な対応に取り組む。 ・熱中症警戒アラート発令時、雷雨などの気象災害への迅速な対応と、さくら連絡網を活用して、保護者への確実な情報提供を行う。
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができています。</p> <p>【数値指標】 ⇒教職員 肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修や学校課題にデジタル機器の活用を位置付け、ICT支援員と連携し、授業で実践していく。 ・情報主任などを中心とし、最新の情報を教職員全員で共有し、学び合う。 	<p>【達成状況】 教職員 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も校内研修等で教師のICTスキルを磨くとともに、子どもたちがうまく活用するコーディネートできる指導力を身に付けていく。
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位の他にも代表委員会などで「さわやかあいさつ運動」を実施し、校園あいさつ運動も取り組んでいく。 ・「ひらきたレンジャーがんばりカード」の活用や「さわやかあいさつ運動」などの取組を、各種たよりやHP等で家庭に知らせることで、家庭と協力してあいさつの励行を行う。 ・児童会が中心になった、主体的な啓発活動を実践していく。 	<p>【達成状況】 児童 95 教職員 100 保護者 84 地域 82</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や児童会活動などで「さわやかあいさつ運動」を実施するとともに、地域協議会や地域学校園とも連携してあいさつ運動を展開していく。 ・道徳や学級活動の授業を通して、挨拶について考える活動を取り入れる。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、「ひらきたレンジャーがんばりカード」を使って家庭と協力できるようにする。

<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、月ごとに児童に振り返りをさせたりして意識付けを図る。</p> <p>・校長先生の挑戦状や帰りの会などにおいて、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。</p> <p>・見通しを立てて行動できるように声掛けをしていくことで、5分前行動を意識し、余裕のある生活を送れるようにすることで、時間を守って生活する意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童91 教職員100 保護者89 地域88 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、月ごとに児童に振り返りをさせたりして意識付けを図る。</p> <p>・平北レンジャーからの挑戦状や帰りの会などにおいて、生活目標の振り返りや良い行いを認め合う場を設定する。</p> <p>・一斉下校の日には、下校時刻5分前になったら音楽を流し、時間を守ることへの意識を高められるようにする。</p>
<p>B3 いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心が高まるよう努めている。</p> <p>【数値指標】 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>・図書室のイベントで楽しくいろいろな分野の本に親しむ機会を設ける。</p> <p>・家読などの取組を継続しつつ、今年度もHPや各種たよりでさらに発信していく。</p> <p>・家庭での読書量が増えるよう、週に1回の持ち帰りを推奨し、家庭での読書活動を推進する。</p> <p>・学校図書館係と図書館司書が連携し、読み聞かせのやり方を工夫したり、授業内容に関連した図書の紹介を定期的に行ったりする。</p>	<p>【達成状況】 児童82 教職員100 保護者54 ・保護者のみ、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・授業参観の際など、保護者が図書室に立ち寄れるような機会を作る。</p> <p>・家族のために子どもが本を選ぶ機会をもつ。</p> <p>・各種たよりやHPで、図書室のイベントや家読などの取組を継続しつつ、図書を活用した授業の様子を発信したり、授業参観等において、図書を活用した授業を実践したりする。</p> <p>・家庭での読書量が増えるよう、週末の宿題などでの家読を継続し、家庭での読書活動を推進する。</p>

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9）】

- ・A1の「主体的に学習に取り組む態度」やA2の「思いやりの心」についての肯定的回答は、全ての対象で目標数値を上回った。引き続き、基礎学力の向上を目指した取組を継続し「分かる授業」「楽しい授業」を実践していく。また、互いを認め、相手を大切にすることを高めるため「認め、励ます」支援や、道徳の授業を中心とした各教育活動において、思いやりの心を育てるように取り組んでいく。
- ・A3の目標に向かって「あきらめずに、粘り強く取り組む態度」や、A4の「健康や安全に気を付けて生活する態度について」は、昨年度より肯定的回答が減少した。各種検定や学習など、継続的な児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。また、児童が健康・安全について気を付けて生活できるよう、安全教育を継続的に指導するとともに、保健教育や食育指導の充実を図る。
- ・A6の「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしているか」については、昨年度より児童、教職員ともに肯定的回答が減少した。ALTと連携し、英語を話す機会を増やすとともに、英語に親しめるような活動の充実を図っていきたい。
- ・A8の「児童はデジタル機器や図書等を学習に活用しているか」については、児童、保護者ともに肯定的回答が昨年度より約7ポイント減少した。学習のねらいに応じて1人1台端末を効果的に活用するための方法を工夫するとともに、学校図書館司書と連携を図り、学習内容に沿った図書のリストアップや購入を行うなど、図書資料を有効活用できるようにする。

【目指す学校の姿（評価項目A10～20）】

- ・A13の「学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気であるか」については、全ての対象で90%以上の肯定的回答割合で昨年度を上回った。引き続き児童の主体性を大切に、個に応じたきめ細やかな支援をするとともに、児童の良さを見取り「認め、励ます」指導を継続していく。
- ・A14の「教師が分かる授業やきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っているか」については、全ての対象で昨年度の肯定的回答を上回った。引き続き、めあて、まとめ、振り返りを意識した授業を実践し、より確実に学習内容の定着が図れるようにする。また、個に応じた指導の充実を図ることで、基礎・基本の定着を図っていく。

・A11「教職員はいじめが許されない行為であることを指導しているか」については、児童の肯定的回答は目標値を上回るとともに昨年度より上回った。一方で保護者の肯定的回答率が目標値を下回った。いじめゼロ強調月間だけでなく道徳や学活などの時間を中心に、日常の教育活動においていじめは許されない行為であることを再認識できるようにするとともに、相手の気持ちを想像したり、尊重したりすることの大切さを指導していく。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】

・B1の「児童は、時と場に応じたあいさつをしているか」については、児童、教職員、保護者についての肯定的回答はいずれも目標値を達成し、昨年度を上回っている。一方、地域の肯定的回答については昨年度より減少している。引き続き、児童会活動や学級活動、道徳の時間等全教育活動を通して、あいさつの意義や大切さを指導していく。また、学校内だけでなく、日頃お世話になっている地域の方々に対する感謝の気持ちを持ち、気持ちのよいあいさつができるよう指導を行っていく。

・B3の「児童は読書への関心があり、いろいろな分野の本を読んでいるか」については、児童、保護者とも肯定的回答が昨年度より減少した。学校図書館司書と連携を図り読書週間の充実や読み聞かせ、ブックトーク等の機会を活用し、児童の読書への関心を高められるようにする。また、家庭読書の習慣化を図るため、週末の宿題などでの家読を継続し、家庭での読書活動を推進する。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9）】 【目指す学校の姿（評価項目A10～20）】

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】

・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」についての項目において、現在、学校では実際にいじめがあるのか、あるのであれば適切に対応することが大切である。⇒学校としては、その都度指導・支援をしており、大きな問題になる前に対処している。

（方策）家庭や地域においても児童の様子について、気になったことがあれば学校と情報を共有し、早めに対応できるよう学校と地域、家庭で協力していく。

・B1の「児童は、時と場に応じたあいさつをしているか」については、地域の人にあいさつをすることは大切であるが、最近の社会情勢からも、家庭では「知らない人にむやみに声を掛けない」と指導していることもある。このことも地域の方へのあいさつが十分できていない要因の一つになっているのではないかな。

（方策）地域の人たちも、子供たちに顔を知ってもらえるよう、学校の教育活動に積極的に参加することも必要である。また、地域の人たちも、子供たちに積極的にあいさつや声掛けをしていくことで、児童との信頼関係を築いていくようにする。

・児童の安全確保については、学校だけでなく地域でも日頃から危険な箇所を把握し、学校と情報を共有しながら児童の安全を確保していくことがこれからも求められていく。

（方策）安全点検や合同点検等の機会を活用し、児童の通学路の危険箇所を把握するなど、学校と地域が協力して安全指導と見守り活動を行う。地域協議会やスクールガードのメンバーも危険個所のリストアップを行い、行政に働きかけることで、施設面での改善を図るとともに、学校や保護者、地域に周知するようにする。

・B3の「児童は読書への関心があり、いろいろな分野の本を読んでいるか」については、時代の流れもあり、子供たちは紙の本だけでなく、デジタルを通して読書をする機会も多くなっている。評価の項目に、デジタルブックも含めた回答ができるようにすると、肯定的な回答も増えてくるのではないかな。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～9）】

・結果だけでなく、そこに至るまでの過程も見取りながら「認め・励ます」指導を継続して行うことで、児童の自己肯定感を高め、主体的に学校生活に取り組めるよう支援していく。また、学習指導においても「認め・励ます」指導を心掛けていくことで、児童が意欲的に学び続けられるよう支援していく。

・学習におけるICT機器と図書の効果的な活用を図るため、環境整備を行うとともに、指導方法を研究するなど、学校全体で取り組んでいく。

【目指す学校の姿（評価項目A10～20）】

・学習内容の確実な定着を図るため「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識した授業を行うとともに、個に応じたきめ細やかな支援を心掛けることで、児童が「分かる」「楽しい」と思えるような授業展開が行われるよう継続して取り組んでいく。

・道徳の授業を中心に学校教育全体を通して、思いやりの気持ちを持ち、相手の立場を尊重する態度を醸成できるよう支援していく。また、学校での取組を地域や家庭にも周知し、「いじめを許さない」ということを学校だけでなく、地域や家庭でも共通理解しながら指導していく。

・地域や家庭と連携し、児童の安全を確保するとともに、安全指導を行い児童自身の危機管理能力や安全に対する意識の高揚を図るようにする。また、地域からも行政に働きかけを行うことで、施設の改善や安全対策の充実を図っていく。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】

・「時と場に応じたあいさつ」については、引き続き学校の教育活動全体を通して指導するとともに、地域協議会をはじめとした地域の方々とも連携したあいさつ運動の展開を図る。

・関係機関や関係職員と連携し、英語に親しめる環境づくりや、本に親しめる機会を増やすことで、幅広い分野に興味をもち、グローバル社会に適応できる児童の育成を図っていく。